

「鼠径ヘルニア脱腸」について



外科胃腸科

ふじた しゅんすけ
藤田 隼輔

山香病院だより vol.176

いのが現状です。しかし、放置しても治ることはなく、診断がついた後に手術の日程に關してもご相談が可能ですので、鼠径ヘルニアの症状がある方はお気軽に受診していただければと思います。

なっている、時に嵌頓（かんとん）を引き起こすことがあります。腸の一部が挟まり込んで、おなかのなかに戻らなくなってしまう状態を嵌頓といい、強い痛みや吐き気を伴います。嵌頓すると腸が虚血（血流が減少、または途絶えること）となり、最悪の場合、腸が壊死する（腐る）こともあるため緊急での処置が必要となります。

杵築市立山香病院外科胃腸科の藤田と申します。今年の9月より新しく

弱くなった部分から腸や内臓脂肪などが内容物として脱出します。

山香病院に赴任しました。専門は消化器外科です。消化器外科は食道や胃や腸などの消化管、肝臓や胆嚢、すい臓等のほか、腹部のヘルニア等、幅広いお腹の臓器を専門とした診療科になります。

皆様は鼠径ヘルニアという病気はご存知でしょうか？

鼠径ヘルニアはいわゆる「脱腸」という言葉でよく知られています。成人の

鼠径ヘルニアは、加齢によりお腹の壁（筋肉や筋膜）が弱くなることで発症し、

鼠径部（股の周囲）に膨らみができ、不快感や違和感、痛みなどを伴います。運動や立ち仕事をしている時、その他トイレでいきんだり等、腹圧がかかったときに膨らみや違和感が出現しますが、横になると内容物がお腹のなかに戻り、膨らみや違和感がなくなるため、最初はあまり気にされない方が多くいらつしやいます。

しかし、鼠径ヘルニアは自然に治ることはなく、放置すると徐々に大きく

鼠径ヘルニアの根本的な治療法は手術しかありません。手術ではメッシュという人工の膜を用いて、弱くなった腹壁の補強を行います。最近では腹腔鏡といい、ビデオモニターを用いながら行う手術があり、小さな傷で手術を行うことができるため、患者さんの術後の負担が少ないことが特徴です。当院も腹腔鏡を用いた手術を積極的に取り入れております。

鼠径ヘルニアになんともなく気づいていても、いざ病院に行くとなるとハードルが高いと感じて、我慢してしまっている方が多